

特集 「親しまれ、頼られるJA」を目指して JA自己改革の一年を振り返る

2019年度(令和元年度/2019年4月1日～2020年3月末)の取り組み。



「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」

JA農機・資材 大展示会開催

作業効率を高める農薬散布ドローン(小型無人飛行機)や自動運転無人トラクターなど、22社の最新の農業機械が展示されました。



野菜育苗共同で 労力削減

苗(トマト、ピーマン、ネギ)の供給体制を確立し、労力の軽減や良品生産、産地の維持に努めています。トマト、ピーマンは生産者のほとんどがJA育苗の苗を利用しています。



販売力の強化へ 市場調査

首都圏市場を中心に、販売担当職員を毎月派遣し、実需者ニーズの把握と販売要請を実施。マスコミ(TV)を活用した積極的なPR宣伝にも努めました。



ニンニク作業機に助成 ～人手・経費負担軽く～

産地拡大事業として、新たにニンニク作業機械の導入助成を実施しました。1台当たり100万円を助成。収穫機械2台、植え付け機械8台が導入になりました。



JA受託作業の充実

機械導入コストや労働力の軽減、さらに高品質出荷に向け、JAでの受託作業の重要度が増えています。(ダイコン、ニンジン、パレシヨ、トマトなど7品目)



生産・協力組織への助成金 3,700万円

5振興会(稲作・野菜・果樹・花き・畜産)、2協力組織(青年部・女性部)に対する生産振興、地域振興に向けた活動支援として年間3,700万円助成しました。



ナガイモ種子更新で 収量性向上

購入ムカゴ1^{kg}当たり1,000円を助成(5,985^{kg}、316人)。種子更新をしない農家に比べ10アール当たりの収量が1割アップ、収益性も5万円向上しました。



担い手パワーアップ・アクション 年間巡回6,167件

農家の意見・要望を吸いあげ、JA事業へ反映させる訪問活動で今年度は、新たに作業機械の導入助成を盛り込みました。定期的に報告会を開き、情報共有を図っています。



購買事業のランク奨励金 約6,800万円

令和元年度肥料・農薬大口利用・ダンボール出荷奨励金措置の実施により、農家の生産コスト軽減を後押ししました。



組合員の方々や地域の皆様から親しまれ、必要とされる存在になるため「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標に自己改革を進めています。

担い手育成塾

ナガイモ、ニンニク、ネギ、ゴボウ、ピーマンの主要5品目で育成塾、さらに経営感覚を身につけるためのマネジメントスクールを開講し合わせて63人が受講しました。



若手指導員 自らスキルアップ

若手指導員自らが種子を植え付け、栽培管理をしながら、肥料や資材の試験を実施。成果や効果を農家につなぐことで、指導力アップと生産コストの低減を目指しています。



ベテランの技、若手へ

営農担当者を対象に勉強会を開き、専門的な知識習得の他、ベテラン営農指導員から若手指導員へと指導技術を伝える取り組みを始めました。



仲間と共に産地振興

20～40代の農業後継者ら300人が集まり、若手農業者パワーアップ大会を開催。魅力ある農業、もうかる農業に向け、産地の振興を担おうと士気を高めました。



直送の産地包装で紹介

東海地方の米卸会社が「まっしぐら」の食味、品質の良さを高く評価したことから、単品販売がスタート。直送の産地包装で米どころをアピールし、有利販売に努めました。



良品出荷へ講習会

農産物の良品出荷に向け、作物や地域ごとに現地講習会や出荷日ぞろえ会、勉強会などを開催しています。



野菜価格低迷対策で 農家支援

長引く野菜の価格低迷を踏まえ、独自の対策として、1.無利子貸付 2.野菜特別支援金 3.利用高にに応じた奨励金支払い 4.米概算金追加払いで再生産支援に努めました。



ブランド「TOM-VEGE」 豊洲市場でアピール

豊洲市場内のキッチンスタジオ「フレッシュ・ラボ」でトップセールスと試食宣伝を行い、ブランド野菜「TOM-VEGE(トムベジ)」の販売力強化に努めました。



関西のソムリエ育成、 試食販売デビュー

大阪市内で野菜ソムリエを対象に「TOM-VEGE」勉強会を開催。関西の野菜ソムリエによる試食販売をスタートし、販路拡大と消費宣伝に努めました。

